

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
読売理工医療福祉専門学校		昭和51年6月1日	渡 邊 敏 章		〒108-0014 東京都港区芝 5-26-16 (電話) 03-3455-0221	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 読売理工学院		昭和45年1月31日	千 葉 康 文		〒108-0014 東京都港区芝 5-26-16 (電話) 03-3455-0221	
目 的	厚生労働省が指定する科目に沿って、国家資格取得者として実践するにふさわしい知識や技術および人間性を持ちうる人材(専門職)を育成することを目的とする。					
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与	
社会福祉専門課程	介護福祉学科	2年(昼)	93単位	平成19年文部科学 大臣告示第20号	—	
教 育 課 程	講義	演習	実験	実習	実技	
	66単位	15単位	0単位	12単位	0単位	
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		49人	3人	14人	17人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 定期試験・出席・演習・課題等 の総合評価。		
長期休み	■学年始め：4月8日 ■夏 季：8月1日～8月26日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■学 年 末：3月20日～31日		卒業・進級条件	進級：1年次の必修科目をすべて修得 卒業：必修科目すべてを含む93単位 を修得		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■学生の状況に応じた指導等の対応 電話連絡・個人面談、ホームルーム等		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動(有・無)		
主な就職先	■主な就職先、業界 介護業界 ■就職率 ^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 100% ■その他(任意) (平成27年度卒業者に関する平成28年4月 時点の情報)		主な資格・検定	・介護福祉士 ・福祉住環境コーディネーター2級 ・介護福祉事務士		

中途退学の現状	<p>■中途退学者3名 ■中退率7.5%</p> <p>平成27年 4月 1日在学者 40名(平成27年4月入学者を含む) 平成28年 3月31日在学者 37名(平成28年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 健康上の理由、単位不足、進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 学力不足に関しては個別面接・個別補講で対応。健康上の理由に関しては保護者やスクールカウンセラーと連携するなどして対応。</p>
ホームページ	URL: http://www.yomiuririkou.ac.jp/

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

介護福祉業界は頻繁に法制度の改正が行われているため、現場での状況を把握する必要がある。また、介護福祉の専門職としての教育には、学校での学びを実習の場で実践し、体験を踏まえてより深い学びにするという反復の学習が不可欠である。そのため、実習施設との連携を強化し、学生の状況把握や情報共有に努め、専門職としての成長を促すことが必要である。

本校では、他校よりも現場での実習種別を多くとり、実践力向上のために指導をしてもらっている。さらに、兼任教員には、現場での実践者を、また当事者や現場職員を特別ゲストとして招聘し、職業実践的な教育を取り入れている。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年6月30日現在

名 前	所 属
赤羽 克子	聖徳大学 心理・福祉学部 社会福祉学科 教授
大庭 尚子	港区立特別養護老人ホーム港南の郷 保険課長
渡邊 敏章	読売理工医療福祉専門学校 校長
曾我 辰也	読売理工医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長

(開催日時)

第1回 平成27年7月23日 17:30～18:30

第2回 平成27年11月26日 17:30～18:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

介護福祉分野においては、介護保険法の改正が短い周期で定期的に行われることから変化が大きい業界である。また、知識だけでなくコミュニケーション力等対人援助職としての技能や実践力が求められる分野である。そのため、基礎力を磨き、現場で求められる介護福祉士のニーズに応えられるような学生を養成していくことを基本方針としている。また、技術の進歩にも対応できるように、最新の技術の習得も心がける必要がある。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護実習C (高齢者施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉施設に入所し介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、個別の介護ニーズの理解を深める。 ・介護専門職としての信頼関係作りと役割や多職種連携について学ぶ。 ・実習指導者につき、利用者個々の生活支援技術の見学・実践を行い、指導を受ける。 ・集団あるいは個別に行なうレクリエーションの意義を理解し、計画し実践できるようになる。 ・週1回、実習巡回教員が施設・事業所を訪問し、実習状況の確認を踏まえ、巡回指導を行う。 ・15日間継続して利用者に関わり、介護過程の展開(情報収集)の学習をする。 ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習の振り返りと、今後に向けた課題を確認し、学生の自己覚知につなげていく。 	①社会福祉法人 響会 特別養護老人ホーム 好日苑 ②社会福祉法人 東京聖学院 港区立特別養護老人ホーム サン・サン赤坂 ③社会福祉法人新生寿会 特別養護老人ホーム ありすの杜南麻布 ④公益社団法人 地域医療振興協会 東京北医療センター 介護老人保健施設さくらの杜 ⑤社会福祉法人 洛和福祉会 特別養護老人ホーム 洛和ヴィラ南麻布 他48施設
介護実習D (事業Ⅱ 施設実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・23日間にわたり、継続して利用者に関わり、介護過程の展開(観察、情報収集とアセスメント、個別介護計画立 ・実施・評価)の一連のプロセスを実施する。 ・利用者個別の介護ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作りと役割、利用者や家族への支援の必要性について学ぶ。 ・サービス担当者会議(カンファレンス)や申し送り等に参加し、情報共有や多職種連携、地域ケアの在り方を理解 	①社会福祉法人 天童会 重症心身障害児施設 秋津療育園 ②社会福祉法人 東京都社会福祉事業 団 救護施設あかつき ③社会福祉法人 東京緑新会 障害者支援施設 多摩療護園

	<p>し、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団あるいは個別に行なうレクリエーションの意義を理解し、計画し実践できるようになる。 ・週1回、実習巡回教員が施設を訪問し、実習状況の確認を踏まえ、指導を行う。 ・実習期間中に帰校日を数回設け、学内に於いてグループワークや個別面談指導を実施する。実習の進捗状況を確認・調整し、それまでの実習を振り返り、課題の整理とこれからの実習目標について確認を行う。 ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、振り返りと、今後の課題を確認する。 	<p>④社会福祉法人 恩賜財団済生会 港区立特別養護老人ホーム 港南の郷</p> <p>⑤社会福祉法人 さくら会 介護老人保健施設 ケアセンター南大井 他47施設</p>
--	---	---

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

介護福祉士養成施設協会や日本介護福祉士会等が開催する研修会や、東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団等が開催する研修会に計画的に参加し、実務に関する知識・技術の修得と学生指導力の向上を目指す。また、次年度は企業等から講師を招聘し、校内で教員対象の実務に関する研修会を開催し、最新の知識を得る機会とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年6月30日現在

名 前	所 属
渡部 俊一	読売理工専校校友会 副会長
植田 三喜男	臨床工学科学生保護者
湯浅 孝雄	慶応仲通り商店会 会長
羽場 宏祐	(株)インターナショナルクリエイティブ 特別顧問
鹿毛 信一	河端建設(株) 工事部部长
武田 知明	東邦電計(株) 営業部部长
笹口 友美	北里大学北里研究所病院 看護部 看護師
大庭 尚子	港区立特別養護老人ホーム港南の郷 保険課長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL : <http://www.yomiuririkou.ac.jp/guide/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL : <http://www.yomiuririkou.ac.jp/guide/>

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程 介護福祉学科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人間の尊厳と倫理	人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎能力を養う。	1前	30	2	○		
○			対人援助技術	介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な基礎的対人援助技術を学ぶ。	1前	30	2	○		
○			福祉と社会保障	我が国の社会保障の基本的な考え、歴史、仕組みについて理解する。人間の生活と社会との関わり、自助と公助、共助を理解する。	1通	60	4	○		
○			地域ケアネットワーク	住み慣れた地域で住み続けるために、地域包括支援システムを実践することの意味を学ぶ。	2後	30	2	○		
○			アクティビティ	生活を豊かにするためにアクティビティの意義を理解する。個別の利用者に合わせたカクティビティ計画を作成できるようになる。	1後	30	1		○	
○			試験対策講座	卒業時までには修得する必要がある知識を身につけ、国家試験で80点以上の得点を取得できる能力を養う。	2通	60	4	○		
○			介護福祉入門	福祉とは何か、介護とは何か、を考える入門的授業である。自分の生活を振り返ることで、人間と生活を総合的に理解し、生活を支援することの意味を学ぶ。	1前	30	2	○		
○			介護福祉学A	介護の歴史、介護問題の背景、諸外国の状況、日本の介護の現状、介護福祉士の社会的役割を学び、国家資格を取得する誇りと専門職の意識を養う。また、介護従事者として身につけておかなければならない倫理観を学ぶ。	1後	30	2	○		
○			介護福祉学B	介護福祉の専門職として必要な視点を学び、利用者や家族への支援の在り方を理解する。また、介護の対象者が、高齢者に偏らないよう、障害者への理解も深める。	2後	30	2	○		

○			高齢者サービス概論	高齢者福祉の歴史の変遷、現在の介護保険制度を学ぶ。介護ホケンサービスの法的根拠や運営基準を理解し、福祉経営にも関心を持つ。	2 前	30	2	○		
○			障害者サービス概論	障害者福祉の歴史の変遷を学び、障害者総合支援法を理解する。障害者福祉サービスの種類や特徴、役割を理解する。	2 前	30	2	○		
○			安全管理と福祉機器の未来	安全の概念を考察し、観察・予測・分析からセーフティマネジメントを展開する力を養う。また、安全管理と福祉機器におけるロボットテクノロジーなどの先端技術の必要性を理解する。	2 後	30	2	○		
○			介護とコミュニケーションA	介護職に必要とされるコミュニケーション能力を育む。介護を必要とする利用者の気持ち、ニーズを理解する。	1 前	30	2	○		
○			介護とコミュニケーションB	対人援助職として、また他職種との連携を含めたチームケアを実践する上でのコミュニケーション力を養う。	2 前	30	2	○		
○			生活支援技術I	安全で適切な自立に向けた「移動」「食事」「身支度」「清潔」の生活支援の基礎技術を実践できるよう学習する。	1 前	90	3	○		
○			生活支援技術II	安全で適切な自立に向けた「排泄」「睡眠」の生活支援および、状態・状況に応じた「食事」「排泄」「移動」の生活支援を実践できる介護技術を習得する。	1 後	60	2	○		
○			生活支援技術III	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術、見守りから看取りまでの生活支援技術を学ぶ。	2 前	60	2	○		
○			生活支援技術IV	様々な場面における生活支援技術の事例について、介護福祉士として展開方法を考え質の高い生活支援実践方法を演習し、身につける。	2 後	30	1	○		
○			文化と暮らしの援助	日本の文化や慣習・伝統を理解することで、利用者個々の豊かな生活を支援することの必要性を学ぶ。	1 後	30	2	○		
○			生活支援技術(家事)	生活を支援する上での、家事の役割を理解する。掃除、洗濯、調理の支援について学ぶ。	2 前	30	1	○		
○			介護過程I	介護過程の全体像を理解し、自立に向けた介護過程の展開について、アセスメントから計画立案までの具体的方法を理解する。	1 前	30	2	○		
○			介護過程II	自立に向けた介護過程の展開方法を理解し、根拠ある介護を実践するための専門的視点の活用と、チームアプローチの方法について学ぶ。	2 後	60	4	○		

○			介護過程Ⅲ	介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法について考察する。	2 通	60	4	○		
○			介護総合演習 Ⅰ	1年次に実習する6サービスとサービスを利用する利用者の理解をする。実習に向けての心構えやルール等を学ぶ。実習後のまとめを発表する。	1 通	90	3		○	
○			介護総合演習 Ⅱ	2年次の高齢者施設実習および27日間の施設実習に向けてのしどろとまとめを行う。2年間の実習から学んだ成果を発表する。	2 通	30	1		○	
○			介護実習A (通所・有料老人ホーム)	通所施設および有料老人ホームにおいて、介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、利用者の介護ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作り、介護専門職の役割について学ぶ。	1 前	70	1			○
○			介護実習B (障害者サービス)	障害者施設で、介護を必要とする利用者や作業所等で社会参加と自立に向けた支援を必要とする利用者との人間的な関わりを通じ、障害者への偏見や差別意識について考え、当事者理解を深めていく。また、自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要を理解する。	1 後	60	1			○
○			介護実習C (高齢者施設)	高齢者福祉施設に入所し介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、個別の介護ニーズの理解を深め、介護専門職としての信頼関係作りと役割や多職種連携について学ぶ。また、利用者個々の生活支援技術の見学・実践を行い、介護過程の展開（情報収集）の学習をする。	1 後	150	3			○
○			介護実習D (事業Ⅱ施設)	23日間継続して利用者に関わり、介護過程の展開（観察、情報収集とアセスメント、個別介護計画立案・実施・評価）の一連のプロセスを実施することによって、介護の専門職としての支援の在り方を理解し、実践力を身につける。	2 前	230	5			○
○			介護実習E (訪問・認知症グループホーム)	居宅やグループホームにおいて介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、利用者のニーズの理解、並びに介護専門職としての役割、言語的および非言語的コミュニケーションの技術と信頼関係の構築について学ぶ。	2 通	90	2			○
○			発達と老化の理解A	加齢に伴うところ（精神面）とからだ（身体面）の変化と日常生活の変化、不自由さについて学ぶ。	1 前	30	2	○		
○			発達と老化の理解B	高齢者の健康と障害を理解し、よりよい利用者への援助について学ぶ。	2 前	30	2	○		

○			認知症概論	認知症の原因疾患、心理、行動障害を学ぶことで、認知症の方への支援の方法を考える	1 後	30	2	○		
○			認知症援助論	認知症に伴うこととからだの変化や日常生活の不便さを理解し、具体的な支援の在り方や方法を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			障害の理解A	視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害、肢体不自由（運動機能障害）、知的障害、発達障害に関する基本知識を学び、それぞれの障害に合わせた支援方法を理解する。また、障害を持つ者の気持ちを理解しようと努め、支援を考える能力を身につける。	1 後	30	2	○		
○			障害の理解B	高次脳機能障害、重症心身障害、精神障害、内部障害、難病に関する医学的側面を理解し、それぞれの障害に合った支援方法を学ぶ。また、心身に障害を持っている者と持っていない者の世界の違いを感じ取り、地域におけるサポート体制、チームアプローチ、家族支援についても学ぶ。	2 前	30	2	○		
○			こころとからだのしくみ	人間のこころ（欲求・自己概念）、からだ（生命維持、人体）の仕組みを理解する	1 前	30	2	○		
○			生活行為のしくみA	移動、着脱等の生活行為をこころとからだのしくみを学ぶことを通して、生活障害がおこるメカニズムや対応方法を学ぶ	1 通	60	4	○		
○			生活行為のしくみB	入浴、排せつ、睡眠、終末期の生活行為をこころとからだのしくみを学ぶことを通して、生活障害がおこるメカニズムや対応方法を学ぶ	2 前	30	2	○		
○			医療的ケア講義	高齢者および障害者・児の「喀痰吸引」「経管栄養」の概論および実施手順について学ぶ	2 通	70	4	○		
○			医療的ケア演習	高齢者および障害者・児の「喀痰吸引」「経管栄養」の技術を習得する	2 後	50	1		○	
指定(必修)科目合計				41科目	2070単位時間(93単位)					
		○	福祉住環境	福祉住環境コーディネーター2級資格取得のための専門的知識・技術を学ぶ。	2 前	30	2	○		
		○	介護保険事務	介護保険制度における介護事業の運営に必要な保険請求の基本的知識と技術を習得する。	2 後	30	2	○		

		○	社会人基礎力講座	ビジネスマナーについて学習し、社会人として必要な基礎力を身につける。	1 後	30	2	○		
		○	パソコン演習	パソコンの基本操作から業務処理ソフト (Office) の活用スキルを修得する。	1 前	30	1		○	
		○	一般教養講座	基礎学力の向上と就職試験対策を目的として、過去に学習した範囲の数学と国語の復習を行う。また、新聞記事を読んで設問に答える新聞読解も行う。	1 通	60	4	○		
合計				46科目		2250単位時間 (104 単位)				